Campus

宿舎祭特別号

全代会の広報誌

May. 2018

魅せる舞台 奏でる物語

ゆかたコンテスト特集

医学群

「Pink Medicute」

医学群のステージは、デート中にヤンキーに喧嘩を仕掛けられたカップルを描いた物語で、ドラマ「ごくせん」を意識した構成となっている。「ケンカのシーンのクオリティにこだわったのでぜひ注目してほしい」と米田想さん（医学類1年）は話す。アクション性を重視しており、ケンカで勝つ側だけでなく、負かされる側の演技にも力を入れて練習しているという。

今年の医学群のテーマは「Pink Medicute」だ。昨年と同様、医学群らしさを全面に押し出したパフォーマンスを目指す。しかし、今年は昨年とは趣向を変え、ステージ代表者の魅力が引き立つ、協調性を重視したステージを届けるという。

国際総合学群

「PAN Children」

山岡瑠璃さん（国際総合学類1年）率いる国際総合学類は「Do Our Best!!」という意気込みを持って今年のゆかたコンテストに挑むという。

今年の国際総合学類のテーマである「PAN Children」には、二つの意味が込められている。一つはメンバーがこよなく愛するという潘亮学類長の子どもたちという意味だ。もう一つは競技かるたで取り札を払う音だ。

パフォーマンスは、競技かるたに取り組む女の子の成長を描く。百人一首の和の雰囲気とは対照的に、音楽には洋楽を主に用い、国際総合学類らしい和洋折衷のステージを作り上げる。「ダンスバトルが一番の見どころだ。目の離せない5分間をお送りしたい」と山岡さんは話す。

社会学類

「時をかける少女 かけるティティ」

「先輩が楽しいと言っていたので、学類として挑戦することを決めた。出場する同級生みんなで仲良くなることが大きな目標の一つだ」とステージ代表者の對馬麗さん（社会学類1年）は話す。對馬さんは、もともとステージ代表者として出場するつもりはなかった。しかし、その容姿の端麗さとダンスの技術によって友人からステージ代表者として推薦されたのだという。

パフォーマンスのテーマは、魔法使いであるティティの導きのもと出場者はもちろん観客も一緒に「時をかける」ことだ。物語の中では、派手でまばゆく、記憶に強く残るダンスを展開するという。「笑いあり、感動あり、インパクトありの社学ワールドに案内する。

生命環境学群

「花」

「花」というコンセプトを基に、生命環境学群は出場する。ステージ代表者である藤井七彩さん（生物資源学類1年）は「筑波大学に入学する前からゆかたコンテストの存在を知っており、出演したいと思っていた」と語る。入学後、先輩や友人に勧められ、出演することを決意したという。学群単位での参加であるため日程調整が大変だが、役割分担を行うことで困難を乗り越えたいと語る。

生命環境学群は、毎年好成績を収めている。今年はミュージカル調のパフォーマンスで感動を誘う。「パフォーマンス前半では、出演者全員で考えたストーリーの世界観に浸り、同じ空気を共有していただきたい。クライマックスでは手拍子で盛り上がり、観客の皆さんと共に楽しみたい」と藤井さんは語る。

体育専門学群

「闘舞祭」

体育専門学群は昨年に引き続き、ラグビー部とダンス部がコラボしたパフォーマンスを行う。メンバーは部活動が忙しく、ゆかたコンテストの練習に費やせる時間は少ない。山口花菜さん（体育専門学群1年）は「ダンス部の技術と指導力でこの障壁を乗り越え、必ずステージを成功させる」と意気込む。

今年の体育専門学群のテーマは「闘舞祭」だ。祭りの楽しい雰囲気を表現する一方で、力強いパフォーマンスを目指す。「和テイストな曲を中心とした構成となっている。ダンス部にしかできないような大技を取り入れたパフォーマンスをぜひ見て欲しい」と山口さんは話す。昨年の準グランプリから1つ順位を上げ、今年は優勝を狙う。

春日エリア

「春日帝国」

春日のゆかたコンテストのメンバーは「春日民」と呼ばれる知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の2学類の学生から構成される。「天王台エリアの学生から『春日民』には『陰キャ』や『ツイ廃』が多いと思われていると感じる。また、春日エリアは天王台エリアから離れているため『陸の孤島』と捉えられがちだ」と藤本真由子さん（知識情報・図書館学類1年）は語る。しかしメンバーは、天王台エリアの学生と交流したいと考えているという。

パフォーマンスには天王台エリアの学生との絆を確かめたいという「春日民」の思いが込められている。「この機会に、落合先生目当てではなく、『春日民』との交流を目的に春日エリアへ足を運んでほしい」

芸術専門学群

「ゆりこ in 和んだぁらんど」

「ステージ代表者として少しでもみんなの役に立ちたい」と、ステージ代表者の矢島由莉子さん（芸術専門学群1年）は話す。

芸術専門学群のテーマは「ゆりこin和んだぁらんど」だ。水色が好きな矢島さんが映画「不思議の国のアリス」内のアリスの衣装の色に着想を得たことで生まれた。ステージでは、オリジナルで製作する浴衣をはじめとした「和」の雰囲気と不思議の国のアリスをモチーフにした「洋」の世界観の融合を実現する。「見ている人がステージの世界観に入り込めるように衣装を工夫した。踊っているときの衣装の動きにはぜひ注目してほしい」と矢島さんは語る。「私と一緒に、芸専和んだぁらんどに行きませんか？」

社会工学類

「NOT WAAAY!!! ～のっとウェイ～」

「社会工学類を名乗ると『ウェイ』と決めつけられることが多い」と阿部くらんさん（社会工学類1年）は話す。阿部さんが率いる今年の社会工学類のテーマは「NOT WAAAY!!!!～のっとウェイ～」だ。「テーマでは『ウェイ』ではないということを主張しているように見せかけた。しかしパフォーマンスは『ウェイ』という社会工学類らしさを全面に出した構成である」と阿部さんは語る。

パフォーマンスはかぐや姫の物語のリメイクである。本来は悲しい結末を持つ昔話にネタを盛り込み、楽しい物語に仕上げたという。「ラストでは社会工学類のコールでお馴染みの『あの曲』を用いる。観客の皆さんも歌って飛んで、一緒に盛り上がって欲しい」

Campus 全代会の広報誌
May. 2018

宿舎祭特別号
2018年5月21日発行

記事制作者より

初めての取材と執筆。慣れない執筆では、先輩方のサポートによりどうにか書き上げることができた。この場を借りて感謝を申し上げたい。一人でも多くの方にCampusを読んでいただけたらと思う。

【軽辺凌太】

専門委員として広報委員会に所属して約5ヶ月。実際に記事を書いたのは今回が初めてで、想像していたよりも苦労したが楽しくもあった。自分の文章がより多くの人の役に立ち、より多くの人の心を動かせるよう、努力していきたい。

【北村夏海】

今まで「記事」と呼ばれるものの執筆も経験していた私は、このCampusも今までの要領で問題なくこなせるだろうと考えていた。が、現実は違った。全代会の広報を担うという特性上、記事執筆には様々な制約があり、がんじがらめの中で適切な表現を探していく執筆作業だった。とはいえこの活動はまだ始めたばかり。厳しいルールの中にも往々にしてあるだろう表現方法を見つけていきたい。

【瀬邉風馬】

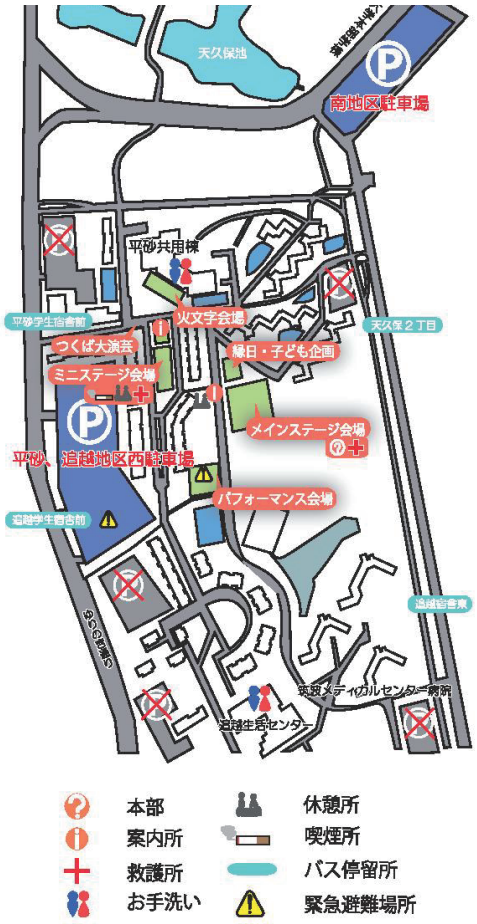
新入生6名を迎え、新生広報委員会が発足して約一ヶ月たった。ミーティングに出席するたび、全代会室が若さと活気に満ち溢れている、と感じる日々である。そんなフレッシュな空気のもと、今号を作り上げた。楽しんでもらえれば。

【和田多香子】

表紙制作者より

新入生を迎えて新たにスタートした広報委員会。今号が新たなメンバーで作る最初のCampusとなった。一年前、自分自身も全てが手探りの状態で制作に関わっていた時期をとても懐かしく感じる。今年一年間、フレッシュな新入生に負けないよう頑張っていきたいと思う。

【西堀涼香】



STAFF

編集人	和田多香子
発行人	十川澄
表紙デザイン案	西堀涼香
編集委員	新真澄
	岡﨑那菜
	軽辺凌太
	北村夏海
	小林美優
	瀬邉風馬
	鈴木瑠夏
	十川澄
	西堀涼香
	和田多香子

発行　全学学類・専門学群代表者会議
広報委員会

http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/
zdk@stb.tsukuba.ac.jp

広報委員会では随時編集委員を募集しています。興味のある方は上記のメールアドレスまでご連絡ください。